

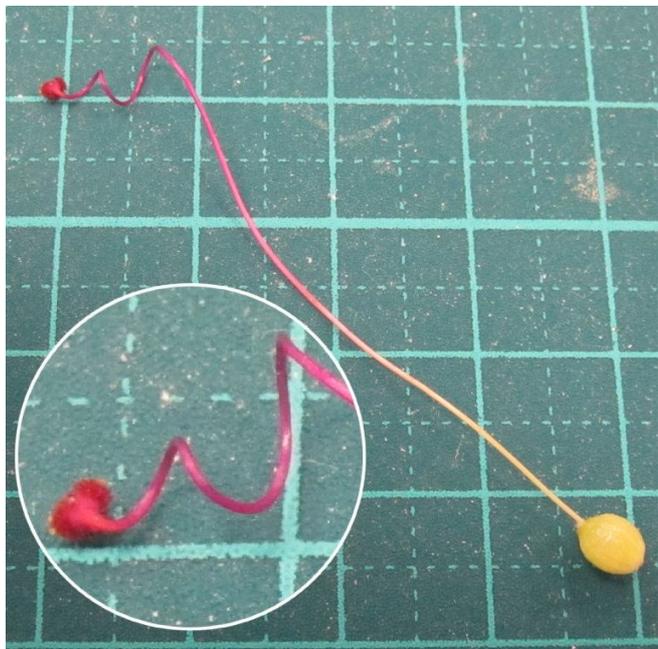
「アサガオの花の分解保存(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

5年の理科では「花の構造」の学習がある。私はオシロイバナが一番適していると思っている。



写真は、オシロイバナの「めしべ」とその先端の「柱頭」、それに下部の子房である。オシロイバナのめしべは強靱で、このように分解しても、これらが一体化していることがよくわかる。(実線が1cm四方)



また、オシロイバナは花粉がとても美しい。まるでアゲハの卵のようだ。一気に何百輪も咲くので、いくつもの花を分解して観察できる。欠点は、夜間に咲くので午前中にはほとんど萎んでしまうことだ。

アサガオも優秀な学習材である。オシロイバナのように花の数は多くないが、花のサイズが大きく、おしべやめしべもわかりやすいので、子どもの「分解観察」には適している。



子どもたちには、1学期にアサガオの種子を一袋(10粒程度)を配布しておいた。うまく咲かせた子どもが多く、観察に使う当日の朝、花を摘んで持ってきてくれた。



このように大輪のアサガオの花に、つぼみもついたまま持参してくれる子どももいた。これは有難い。



およそ一人一輪、慎重に分解していく。特にめしべと子房がつながっている様子がわかるように開く。